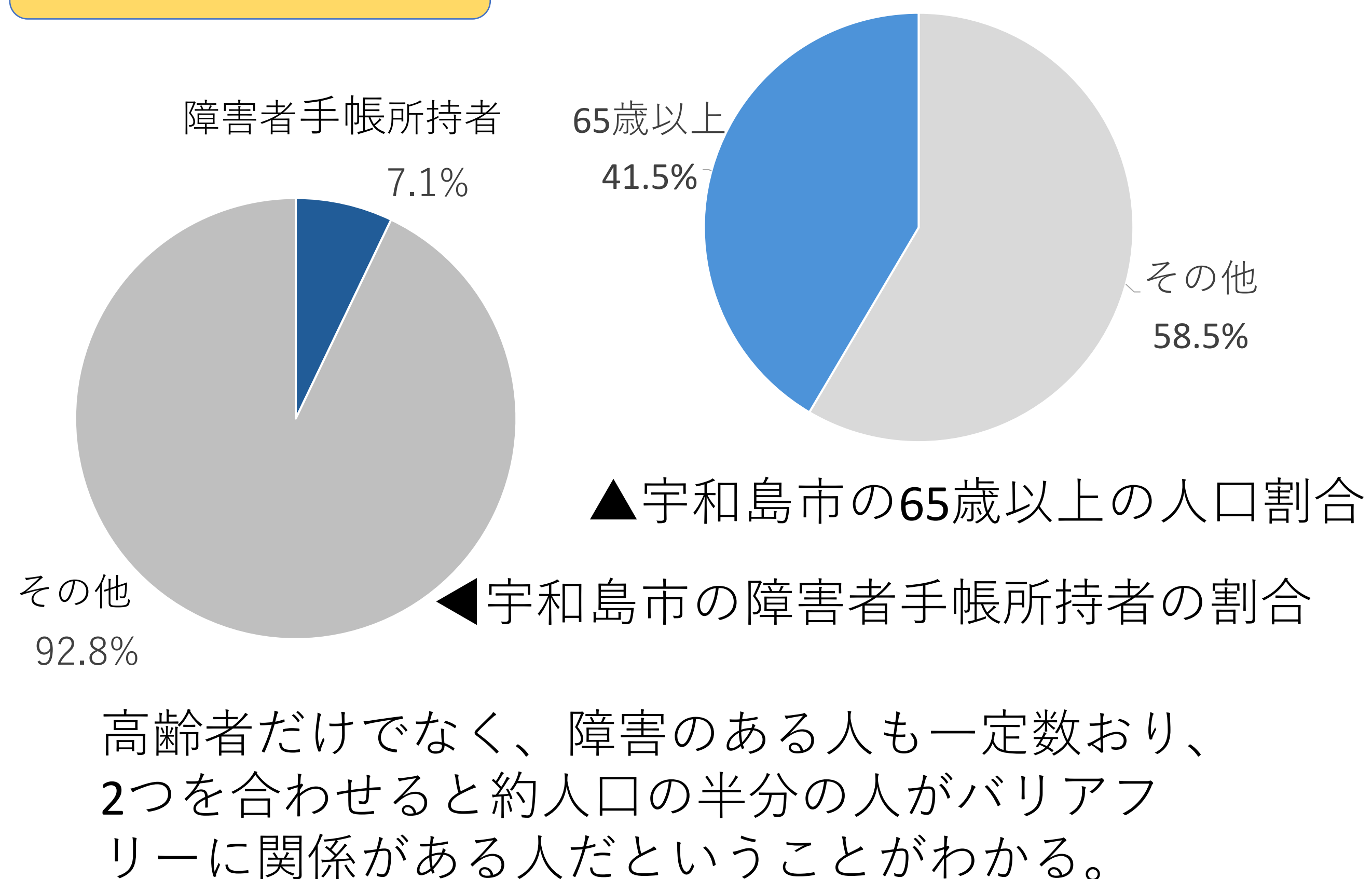


～誰もが暮らしやすい街にするためのバリアフリー～

研究の背景

社会全体で少子高齢化が進んでおり、昔より人口に占める高齢者の割合が多くなっている地域が増加している現状があり、高齢者や障害のある人が不便だと感じる場面が増えてくる。みんなが暮らしやすい街を考えた時、特定の人のみならず、誰もが安全で安心して暮らせる環境づくりが重要だと分かったから。

現 状



バリアフリーとは

高齢者や、障害のある方を含む**すべての人が不自由なく安全**に生活できるように設計された社会環境や設備のこと

物理的バリア（例）高い段差
文化情報面バリア（例）車内アナウンス
意識の面バリア（例）差別、偏見
制度的バリア（例）補助犬

班 員：山下煌生 山本蒼太 川崎妃織
森 佳暖 浅野みう 土居柚子
指導者：宇都宮正多

仮 説

町のバリアフリーを整えることで、高齢者や障害のある人、子どもが暮らしやすくなるのではないかな。

バリアフリー成功例

ノンステップバス



ノンステップバスとは、床が低く、乗り降りの際に段差がほとんどないバスで、車いす利用者や高齢者、ベビーカーを利用する人でも安全に乗車しやすいという特徴がある。

現在、全国で導入が進められており、特に関東地方では**導入率40%**を超えている。このように、ノンステップバスは多くの人にとって利用しやすい交通手段として、バリアフリー化の成功例の一つである。

今後の課題

- ・高コストで手すりの設置に約一本数万円必要
- ・設置の前に道路のひび割れなどの修理が必要
- ・実際に取り入れるまでの期間が長い

